

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語/論理国語】

1. 対象（実施を想定する学校・児童生徒の実態の概要）

他者との意見を比較する際、互いの意見の共通点や相違点を指摘することはできるが、そこから個人に立ち返って自分の考えを深める力は不足している。今回の単元では、日本文化の時間に対する考え方について、他者の意見を取り入れながら自分の意見を深め、身の回りの事象に対するものの見方、感じ方、考え方を広げさせたい。

2. 単元名「文章の内容と日常の事柄を関連させ、考えを深めよう」

（加藤周一「日本文化の三つの時間」）（全4時間）

3. 単元の目標

知識及び技能	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 〔知識及び技能〕(1)ア
思考力、判断力、表現力等	読むことにおいて、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 〔思考力、判断力、表現力等〕「B読むこと」カ
学びに向かう力、人間性等	本文中の日本文化の三つの時間を日常の事柄と結び付け、自分の考えを深めようとしている。

4. 言語活動 文章の内容と日常の事柄を結び付けた文章を書く。

5. 本時の目標 自分の文章に取り入れるのに最適な要素を比較・検討し、自分の考えを深めよう。

6. 授業展開

解決したい課題や問い

高校3年間は、「三つの時間」の概念のうち、どれに当てはまるといえるだろうか。

考えるための材料

材料A	材料B	材料C
加藤周一「日本文化の三つの時間」（教科書本文）	自分の考えを書き出したロイロノートの付箋	グループで出た意見
想定される活動A	想定される活動B	想定される活動C
日本文化の中には「始め終わりが無い直線の歴史的時間」「円周上を循環する自然的時間」「始め終わりがある普遍的時間」があることを理解する。	自分が当てはまると考える三つの時間の概念と、高校3年間という時間とで共通する要素を書き出す。	自分にはなかった視点の意見を他者から得ることで、自分の意見を深める。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・高校3年間がどの時間の概念に当てはまるかを考え、両者に共通する要素をロイロノートの付箋に簡条書きで書き出す。【個人】
- ・3人1組のグループでロイロノートの共有ノートの機能を用いて各自の意見を共有する。全員の意見が出た後、各自が選んだ時間の概念と他の時間の概念の特徴を比較し、どれを選択するのがふさわしいか検討する。【グループ】
 - 「高校3年間って限定された時間だから、そもそも歴史的時間ではなさそうだよね」
 - 「全員普遍的時間を選んでるけど、本当にこれでいいのかな？」
 - 「春になれば新学期が来るから、自然的時間ともいえそうだよね」
- ・グループでの協議を踏まえ、自分の考えを200字以内の文章にまとめる。【個人】

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

私は高校３年間で三つの時間の概念のうち普遍的時間だと考える。高校３年間は入学から卒業までの有限の時間であり、過ぎた日は戻ってこない。１年季節がめぐれば新学年となる点では自然的時間の側面も持つといえる。しかし、１日たりとも同じ日はなく、時の流れは不可逆的であることから、普遍的時間の方がふさわしい。高校生活は永遠ではない。だからこそ、一度しかない「今」を噛みしめて、残りの毎日を過ごしていきたい。（199 字）

※教科書本文を根拠に、高校３年間という時間をもつ要素と三つの時間の概念の共通項を挙げ、文章が書けていればよい。